

2015年9月27日 礼拝メッセージ

主題：

聖書箇所：黙示録15章

おとといの金曜日、セネガル人の学生が「帰りたいなあ。」とこぼしていました。「お前、いまさらホームシックかい？」とたずねると、「いやあ、ホームシックというよりも今日のお祭りが楽しみなんです。」という返事。彼はイスラム教徒でこのお祭りには毎年、羊を一頭ほふって食べるという。興味をもった私は写真を送ってもらうことにしました。まだ見てはいませんが、今週見せてもらう予定です。ところで、先日700人以上の死亡者を出したメッカの巡礼、これも彼の言うお祭りと同じ由来らしいです。どういうことか。この羊を食べる習慣はアブラハムがイサクをささげたことを覚えてするという事なんです。みなさんご存知ですよ。おお、イスラム教にも共通点があるんだなと妙に親近感を覚えてしまいました。彼らもアブラハムがイサクをささげたことを信じて羊を食べています。私達も同じようにアブラハムの歴史を信じています。なぜ羊をささげない？ヘブル9：12を信じたからです。イエスが犠牲になってくれたからです。

しかし、何というかイスラム教徒も大変です。なにせ、メッカに行くありがたい、聖地である、みんな一生に一度は行きましょう。毎年数百万人がこの時期、世界中から集まっているというのですから。私はどうなんですかって？もちろん行ってみたいですよ、金と暇があれば。でも主は私に言うでしょうね。君は何してるの？せっかく私が完成した救いをもう一度やり直すのですか、と。

聖書には聖地という言葉は2箇所出てきます。それが指しているのはエルサレムとシオンの山です。この両者は同一ですね。しかし、エルサレムに巡礼云々という話は、旧約のいけにえ以外出てきません。新約になるとエルサレムはもはや聖地というよりも宣教会議場のような様相で、パウロなんかは何度も宣教地から呼び戻され、叱られにかえっていたようなものです。

さて黙示録には聖地など及びもよらぬ天の聖所が出てきます。しかし、ここでは裁きの直前の天の聖所が描かれます。この聖所の前に集まった聖徒たちはどうだったでしょうか。中が見られません。終末期、迫害に耐え、主のもとに凱旋する信仰の勇者たちでさえも、その中を見ることがゆるされなかったのです。しかしヘブル書にはどうありますか。子羊主イエスの血により、信じた現在の私達はすでにその聖所の中に入れられてあるのです。何という特権でしょうか！どれほど感謝してもしきれません。

けれども人類は全体としては神を拒み続けてきました。あげくのはてはこの黙示録にあるような反キリスト＝独裁者の出現を許し、666を甘受してしまいます。それほど、人は情けないのです。つまり、自分たちの短期的な生活を保証し、人間の力を強調し、争いがないように管理してくれる人が現れれば、たちどころにほめたたえ、自分たちの自由さえも喜んで差し出してしまおうのです。

残念ながら、独裁者に支配されて終わるわけではありません。主の救いにいたる招きを何度も拒み続けて歴史を刻んだ人類は必ずや厳しい裁きを受けることになります。黙示録に七つずつ、計21回の裁きがなされます。これはその時代の人々に対する主の哀れみです。それだけチャンスがあるわけです。それでも悔い改めないのが人間の本性です。彼らは自分の罪を認めません。もちろん主は彼らを愛しています。しかし、罪を放置しておくことをよしとはしないのです。

1節を見てください。裁きは窮まるとありますが、私は思います。神もどうしようもなく窮まったのです。最高の訳ではないでしょうか。主は板ばさみにあつたのです。人への愛と、ご自分のきよさにです。この主のジレンマこそ、愛のしるしではないでしょうか。

結論：この神の裁きと苦しみを一手にキリストがひきうけました。十字架でイエスも父の裁きと人への愛の板ばさみになり、ご自分をささげられました。実は黙示録以上に窮まる怒りが主イエスの上に落ちたのです。黙示録を私たちが恐れる以上に、恐ろしい裁きを主ご自身がそこで受けたのでした。私たちはそれを通して、今主の聖所に入っているのです。この恵みを今朝、もう一度感謝しましょう。